リレー連載　情報システム学会の利用方法－メールマガジンで情報発信

川野喜一（メールマガジン編集長）

１ はじめに

10 月号の岩崎 和隆さんの記事「情報システム学会の利用方法－会員も学会も Win-Win」でメールマガジンの利用方法についても説明していただきました．今回は岩崎さんからのバトンを受けて，「情報発信」の視点でメールマガジンを紹介したいと思います．（以下，文中では敬称を省略しています．ご了承ください．）

２ メールマガジンの始まり

学会が 2005 年 4 月 23 日に設立された翌年，2006 年 9 月にメールマガジンが創刊され，9 月 25 日に会員の皆さまに向けて発信されました（発行人：杉野 隆，編集長：砂田 薫，副編集長：吉舗 紀子，編集委員：上野 南海雄，小林 義人，芳賀 正憲，細野 公男，堀内 一，山本 喜一）．

創刊号の「ISSJ メールマガジンの創刊にあたって」にメールマガジンの主旨が述べられています．

a. 会員の皆様へのサービス向上の一環．
b. 情報システム学及びその周辺領域の動向についての新鮮な情報を学会から会員の皆様に提供し，会員の研究，業務遂行に役立てていただく．
c. 会員に情報提供するだけでなく，会員から会員へのプッシュ型の情報提供及び情報交換の（きっかけを与える）場としても活用していただく．
d. 掲載する記事は，おおよそ次のようなカテゴリに分類いたします：学会活動報告，学会ニュース，研究会/委員会の案内・報告，研究発表大会案内・報告，会員コラム，情報システム事例紹介，情報システム学とは，賛助会員会社からの情報提供．特に，「会員コラム」，「情報システム事例紹介」，「情報システム学とは」については会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております．

爾来足掛け 18 年，毎月欠かさずにメールマガジンを発刊・発信してきています．

３ どんな記事

では，これまでどのような記事が書かれたのか．学会ホームページで「メルマガバックナンバー」（https://www.issj.net/mm/index.html）として公開していますが，その一部を紹介します．情報発信（ご寄稿）していただく際の参考にしてください．

(1)会員コラム・寄稿

・著書紹介（著者による紹介）:「情報システム調達の政策学　マイナンバーシステム調達における実態と課題」（金崎 健太郎），「超 ID 社会」（八木 晃二），「大学生、限界集落へ行

く情報システムによる南魚沼市辻又活性化プロジェクト」(森本 祥一),「グループワークによる情報リテラシ」(魚田 勝臣)など.

・情報システム,情報システム学に関わる考察や事例紹介:「プログラミング教育必修化にむけて考えること」(島田 由美子),「中堅中小企業のIT活用のカギは『ひとり情シス』にあり」(黒田 光洋),「『IT・ICT』をやめ『情報システム』と呼びましょう！」(魚田 勝臣),「人工知能と知的社会インフラ」(山口 高平),「寄稿 かけがえのないIT技術者―その心の健康（三村 和子）など.

・会員の組織による人材募集,カンファレンスやセミナー情報

(2)リレー連載

・理事が語る：情報システムや情報システム学との出会い,学会に対する思いなど.

・評議員からのひとこと：情報システム学や学会に対する思いなど.

・大学教育最前線：情報システム教育の状況や人材育成の提言など.

(3)連載記事

現在,次の3本が連載中です.

・発注者からみた官公庁情報システムの現状と課題　岩崎 和隆（2019～）50回

・"Well-being"ことはじめ　三村 和子（2017～）71回

・プロマネの現場から　蒼海 憲治（2008～）187回

「プロマネの現場から」の連載回数は蒼海さんに投稿を勧めた芳賀 正憲さんの「情報システムの本質に迫る」に並びました。「情報システムの本質に迫る」の連載は第1回「情報は形がない」から始まり,基礎情報学，情報システム学の研究方法論及びその研究動向，情報システムの構築・運用に関する実践事例，社会的トピックスなど様々なジャンルの話題を情報システム学の視点から分析し，情報システムの実践の場面において情報システム学をどのように適用すればよいのか，どのような視点が有効なのかを具体的に例示してくれました．その功績で第二回(2017)の浦昭二記念賞を受賞しました.

以下,過去の連載記事を紹介します.

・情報システムの本質に迫る　芳賀 正憲（2007-2023）187回

・自称基礎情報学伝道師の心的オートポイエティック・システムからの眺め　中島 聡（2018-2021）

・オブジェクト指向と哲学　河合 昭男（2011-2018）

・連載　著作権と情報システム　田沼 浩（2009-2016）

・社会における情報システムの意味を考える　大島 正善（2012-2014）

・INCOSE入門システム・エンジニアリングの本質と情報システム構築への利用を考える　嶋津 恵子（2011）

・システムの肥大と人間の想像力　矢野 直明（2010-2011）

・情報の価値とインテリジェンス　菅澤 喜男（2010-2011）

・ベテランＳＥの要件定義ノウハウを形式知化した企業情報システム機能選定方法論(FUSE

法)の紹介　隈 正雄（2011）
・日本の情報システムを取り巻く課題と提言　伊藤 重光（2010-2011）
・“実践知としての情報システム教育を考える”-論理的思考力とコミュニケーション力を身に付ける-　小林 義人（2008-2009）

４ 情報発信ノスヽメ

メールマガジンや newsletter は 1990 年代に電子メールの一斉配信の仕組みを利用して始まったもので,若い会員の方にはちょっと古臭い感じがすると思います．しかしながら,いろいろな環境の会員の方へ情報を届ける手段として,広報委員会の方々とも協力しながら続けていきたいと思っています.

メールマガジンを活用して，ぜひ情報発信をしていただき．情報システムの現場での参考にしたり,研究会を始めるきっかけにして欲しいと思います.

・非会員の方も,会員の紹介があれば寄稿いただけます.
・自由に情報発信ができます.メールマガジンの記名入りの記事は執筆者のご意見です（学会の見解を表明するものではありません).
・内容は自由ですが,広告や他者を非難,批判するものなど,学会のメールマガジンにふさわしくないものは掲載をお断りしています（編集委員会で審議します).
・メルマガ編集委員会（issj-magazine■issj.net(■を@に置き換える)に投稿を相談するか,原稿をご提出ください．連載にするか（回数や頻度)，単発かなど,何でもご相談ください.

５ メルマガの編集と発信

毎月，月初めにメルマガ編集委員会を開催して,次号の掲載内容,寄稿記事の審議､今後の企画などを議論し,目次が決まります．編集作業と発信は事務局にお願いしています.メールマガジンは事務局のお力に負うところ大で,大変感謝しております.

これまで乾 昌弘，岩崎 慎一，上野 南海雄，魚田 勝臣，柿澤 晋一郎，神沼 靖子，小林 義人，杉野 隆，砂田 薫，永田 奈央美，芳賀 正憲，堀内 一，吉舗 紀子の諸氏（五十音順）が編集委員としてメルマガを支えてきました．私は 2010 年に編集に関わるようになりました，現在のメルマガの形を整備してくださった当時編集長の岩崎 慎一さんにいろいろ教えていただきました.創刊時から編集委員であった芳賀さんも毎月の編集委員会に必ずお顔を出されました，編集委員会の後，事務局の近くで酒肴を囲みながら芳賀さんはじめ皆さんのお話しを伺うのが楽しみでした.今年の１月号の作成中に芳賀さんが年明けに急逝されたとのお報せをいただき，驚きと悲しみで言葉が出ませんでした.

以上、メールマガジンを活用しての情報発信の参考になれば幸いです。